経営協議会議事要録

１　日　付　２０２５年9月２９日（月）
２　場　所　ステーションコンファレンス東京５０３会議室（及びＷｅｂ会議）
３　出席者
（学内委員）
冨永総長
青木　滝澤　杉本　植木　張替　湯上　宮田　山下　遠山
小谷　各理事
ファブル副学長
（学外委員）
大津　小野寺　小松　榊　佐々木　蓼沼　樋口　渡邉　ビール
正宗　ダッシャー　呉　各委員
（陪席）
福田　田口　各監事
山口　今村　田中　伊豆　各副学長
石井　丸田　各総長補佐
（本部事務機構等）
阿部事務機構長　木村総務企画部長　芳賀人事企画部長
小形教育・学生支援部長　矢野財務部長　松下施設部長
菊地情報部長
木村総務企画部次長　古川総務課長
４　欠席者
（学外委員）
大谷　小林　各委員
５　議　事

○　前回経営協議会（２０２５年６月１１日）議事要録（案）の確認
議長から資料に基づき、上記議事要録（案）の可否について諮り、これを承認した。

○　議　事
議長から、２０２５年６月以降の本学における活動状況について報告があった。

（１）国際卓越研究大学の体制強化計画の早期実現に向けた施設整備
議長から、本議題については、副学長（経営基盤強化・財務管理担当）から

説明する旨の発言があり、伊豆副学長から資料に基づき、国際卓越研究大学の体制強化計画の早期実現に向けた施設整備について説明があり、審議の結果、これを承認した。なお、学外委員からあった意見の概要は次のとおり。
・個々の教員に割り振る面積を工夫し、共用スペースを有効活用するなどし研究環境の整備を進めてほしい。
・新規施設だけでなく、既存施設も有効活用し、異分野融合・共創を促進する空間の整備を検討すべき。

（２）施設整備等に伴う資金調達

議長から、本議題については、副学長（経営基盤強化・財務管理担当）から説明する旨の発言があり、伊豆副学長から資料に基づき、施設整備等に伴う資金調達について説明があり、審議の結果、これを承認した。なお、学外委員からあった意見の概要は次のとおり。
・施設の整備に伴う資金調達にあたっては、償還財源の確保が重要である。また施設整備に先立ち、個人や団体の寄附を組み入れることを検討したほうが良い。
・政府の運営費交付金や助成金に依存するのではなく、新たな資金調達を模索するなど国際水準のファンドレイジング戦略を構築することが必要である。
・整備する施設の価値を明確に打ち出し、外部からの寄附を呼び込むことを検討するべき。また、民間との施設の共同整備を模索し、共同で運営する手法なども検討してはどうか。

（３）2026年度概算要求

議長から、2026年度概算要求のうち国立大学法人運営費交付金については副学長（経営基盤強化・財務管理担当）から、国立大学法人施設整備費については理事（人事労務・環境安全・施設担当）から説明する旨の発言があり、伊豆副学長及び山下理事から、資料に基づき、2026年度概算要求について説明があり、これを確認した。なお、学外委員からあった意見の概要は次のとおり。
・大学病院における継続的な赤字は重大な懸念であり、最先端医療や医学研究への期待に応えるためにも、医師不足への対応と働き方改革を踏まえた労働時間の調整などの整備策を検討する必要がある。
・創薬戦略推進機構はアカデミアの利点を活かしたスキームであり、急速な技術進展に対応するためにも企業との共創を強化すべき。また、工学部、理学部、薬学部等とも連携し、学外企業との共同研究に繋げていくことがよい。
・人手不足、物価高騰は大学も直面する世界的な課題であり、加えて昨今はこれに地政学リスクも加わっているが、ファンドレイジングを強化する好機

と捉え、他大学等の成功例を学び、国際基準を目指すべき。

（４）国際卓越研究大学：体制強化計画の進捗状況

議長から資料に基づき、国際卓越研究大学の体制強化計画の進捗状況について説明があった。なお、学外委員からあった意見の概要は次のとおり。

・Impact、Talent、Changeの各戦略が産業界にも有意義であり、産学共創を通じて理解を広げ、国際卓越研究大学としてのブランド確立に繋げることが重要。加えて、米国だけでなくインドやグローバルサウス地域の海外人材の戦略的獲得もまた重要である。

・専門医制度や医師の働き方改革の影響により、現在、大学を含む医療現場においてフィジシャンサイエンティストの育成が停滞している懸念があり、東北大学の取組をより広めていただきたい。

・ZERO INSTITUTEの設立は、若手研究者と企業が繋がるためのプラットフォームとして素晴らしい取組であり、優秀な海外人材を惹きつける上で極めて重要である。

・企業等の給与が上昇する中で、給与水準と社会の動向が乖離した場合、優秀な人材の確保が困難になる懸念があることから、社会の動向に柔軟に対応できる制度にすべき。

・外部資金を呼び込むためにも、魅力ある研究テーマを行っていることを国内外に向けて発信していくことが必要。

以　上